



日本现代文学
精品注释丛书

中国日语教学研究会推荐

〔日本〕渡边淳一著 崔昆 屈亚娟 注释 胡振平 审校

无影灯

上
日文版

译林出版社



日本现代文学
精品注释丛书

无影灯

上

日文版

〔日本〕渡边淳一 著 崔昆 屈亚娟 注释 胡振平 审校 译林出版社



图书在版编目(CIP)数据

无影灯／(日)渡边淳一著；崔昆，屈亚娟注释．—南京：译林出版社，2004.1

(日本现代文学精品注释丛书)

书名原文：無影灯

ISBN 7-80657-561-8

I. 无... II. ①渡... ②崔... ③屈... III. 长篇小说-日本-现代-日文 IV. I313.45

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2003) 第 031972 号

Copyright © 1997 by 渡边淳一.

Japanese reprint rights in China arranged with WATANABE Jun'ichi through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo.

登记号 图字:10-2002-001号

- 书 名 无影灯
作 者 [日本]渡边淳一
注 释 崔昆 屈亚娟
审 校 胡振平
责任编辑 张远帆
原文出版 文芸春秋,1997
出版发行 译林出版社
电子信箱 yilin@yilin.com
网 址 <http://www.yilin.com>
地 址 南京湖南路 47 号(邮编 210009)
集团地址 江苏出版集团(南京中央路 165 号 210009)
集团网址 凤凰出版传媒网 <http://www.ppm.cn>
印 刷 南京通达彩印有限公司
开 本 850×1168 毫米 1/32
印 张 17.5
插 页 4
版 次 2004 年 1 月第 1 版 2004 年 1 月第 1 次印刷
书 号 ISBN 7-80657 561 8/I·428
定 价 28.90 元(上、下卷)
译林版图书若有印装错误可向承印厂调换

前言

进入新世纪后,始于上世纪八十年代的『日语热』,并没有降温,随着中日两国交流的增多,更多的国人投入到学习日语了解日本的行列中来。国内也引进和编写了相当数量的日语教科书、参考书和工具书,这都是我们这些从事日语教学多年的人乐于看到的。不过,同时我们也感到,相对于品种繁多的语法指导、单词手册之类,国内的日语阅读材料是明显比较薄弱的一环。有许多学生包括身边一些自学日语的朋友发出了『无书可读』的感慨。我们一直在思考怎样的日语读本才是最实用的,于是几经酝酿,精心编注,终于可以把眼前这套书奉献给广大读者。

这套由泽林出版社出版的『日本现代文学精品注释丛书』,与以往的一些泛读教材和文学选读相比,最大的特点在于其完整性。过去我们编阅读材料,常常因为篇幅的限制和教学的需要,对一些长篇的作品只能节选,对一些难度大的作品要作部分改写。这样做,对于读者来说自然有难窥全貌之憾,于编者亦有割爱之痛。现在这套丛书全部是向日本购买版权,不作任何删改的原文出版,完完全全保留了作品的原貌。据我所知,如此成规模地引进日语原著在中国加入世界版权组织后还是首次,不能不说是日语学习者的一件幸事。

1 我们把这套书定名为『日本现代文学精品注释丛书』,是为了体现在编注中的几个基本出发点。首先,选取的都是『现代』作品,这些作品可以体现现代日语的面貌,提供给读者鲜活的语言。入选的作家也是以语言规范平实见长,是学习者容易模仿并值得模仿的对象。同时,所选作品均在日本现代文

学史中有一定的地位，在国内也已经有了不小的知名度，是公认的非常好读的“文学精品”。题材虽不尽相同，但无论是散文游记、爱情小说还是悬疑小说，都能引人入胜。当然，这套书毕竟不同于一般的文学作品欣赏，主要是献给日语学习者的读物，它的实用性更多体现在“注释”上，每本书中对需要注意的生僻单词、语法现象和文化常识都做了较为精当的注释。对于日语程度较低的读者，可以扫除他们阅读中的障碍；对于有一定基础的读者，恐怕也有助于日语知识的巩固与提高。除了方便自学之外，这套书可以供老师们选取一些篇章作为泛读课的教材；考虑到入选作品多有中文译本，在教授翻译课程的时候也可作为参考书使用。

这套丛书是一个新的尝试，我们动了不少脑筋，花了不少力气，也一定会存在不少问题。希望大家能欢迎这个尝试，仔细阅读这些书，提出批评意见，帮助我们把这套书出好，并且继续下去。

中国日语教学研究会会长

胡振平

二〇〇三年六月

その一

「今夜の当直は小橋先生ではないのですか」

午後七時の病室検温を終えて看護婦詰所へ戻ってきた宇野かおるが、壁にかかっている医師当直表を見ながら言った。

「そこは小橋先生になっているけれど、今日は替^①られたそうよ」

詰所の机で入院カルテを綴じていた志村倫子は、かおるの問いに、頭を上げずに答えた。

「替^②ったって、どなたにですか」

「直江先生らしいわ」

「直江先生」

瞬間、かおるは華やいだ声をあげた。

「どうかしたのですか」

「いえ……」

倫子に訊き返されて、かおるは慌てて口をおさえた。

倫子は今年二十四歳の正看だが、かおるは今春から准看護養成所に通っている十八歳の

見習看護婦だった。

「四一二号の石倉さんが、また痛^③がっているのです」

① 替^①られたそうよ/听说换了。(れたは被动助动词れる加た;そうよ是表示传闻的助动词そうだ后续终助词よ构成的,终助词よ、ね在男子使用时必须在前面加上た、です等,而女子则可以直接接在体言、形容动词词干后面。) ② 替^②ったって、どなたにですか/你说换了,换成谁了。(という在口语中说成って,此处可看做终助词,表示重复对方的话;に后省略了替^①ったん。) ③ どうかしたのですか/有问题吗。(どうかする惯用句,有问题、不正常、不对劲儿。) ④ に通っている/到……上学。 ⑤ 痛^⑤がっている/觉得疼。(接尾词が接在形容[动]词词干后表示他人表露于外的感觉,再接ている表示现在的感觉。)

石倉由蔵^{いさくら}は中目黒で寿司屋を営んでいた六十八歳の老人だが、数年前から隠居して店の方は息子夫婦に任せていた。

彼が渋谷に近い、このオリエンタル病院に入院してきたのは一カ月前の、九月の末であった。胃の調子が悪くて、二十日間ほどT大学附属病院にいたのが、三日前に退院して、この病院に廻されてきたのである。

「またうつぶせになって唸^{うな}っているのです」

「家族の方は付いているのですか」

「息子さんのお嫁さんが来ています」

倫子はカルテから目を離し、考え込むように白い壁を見た。

「直江先生は当直室でしょうか」

かおるは機械棚の前で体温計を数えながら尋ねた。

「いらつしやらないでしょう」

「でも、当直なのでしょう」

「いま少し前、外へ出ていったわ」

「外出ですか？」

かおるが訊き返すと、倫子は不機嫌に顔^⑤をそむけた。

「当直なのに、どこへ行ったのでしょう」

「ここだそうよ」

倫子は机の前の壁に貼ってある小さな紙片を指さした。紙片には走り書きの字で、

「直江、四二二—二八五〇」と記されている。

「これはどこですか」

「バーらしいわ」

① のが/虽然……但是。(が可接の後表示转折。) ② 来ています/来了。(ている結果存留。) ③ 考え込む/沉思。(こむ接在动词连用形下,表示完全沉浸在某种状态之中,不容易恢复到原来[正常]的状态。) ④ 当直なのでしょう/他值着班呢。(だろう[でしょう]表示对眼前的事物的推测;而のだろう[か]则是依据眼前的事实对眼前事物的成因、背景进行推测,常与なぜ等疑问词呼应使用。) ⑤ 顔をそむけた/转过脸去。(惯用句)

「バーって……じゃ、お酒を飲んでいるのですか。」

「そうでしょう。」

倫子は他人事のように言くと、再びカルテを綴じはじめた。かおるは、体温計を拭く作業をやめて倫子に訊き返した。

「当直中に、お酒を飲みに行ったりして、いいのですか。」

「よくはないでしょう。」

「でも……」

「あの先生はいつもよ」

見習看護婦のかおるが、正式に夜勤当直のメンバーに加えられたのは一カ月前からである。それ以来、直江医師と当直がぶつかったのは今夜が初めてである。

「そのお店、病院から近いんですか。」

「よく知らないけれど、道玄坂の手前だと言ってたわ。」

病院から道玄坂までは歩いて十分の距離だった。

「でも、そこがバーだということはどうしてわかるんですか？」

「そこから帰っていらした時は、いつもお酒臭いわ。」

「本当ですか。」

「嘘だと思うなら、かけてごらんなさい。」

倫子はカルテを綴じ終え、机の抽斗から入院名札と白墨を取り出した。

とにかく、石倉さんが痛がっているのですからかけてもいいでしょうね。

かおるは弁解するように言うと、紙片のナンバーを見た。

「石倉さんのことをお聞きするのなら、よしたほうがいいわ。」

「でも、いま痛がっているんです。」

① つて/你说。(终助词つて表示重复对方的话。) ② お酒を飲みに行ったりして/去喝酒什么的。(活用词连体形+たりする以举一例暗示其他;に表示来去的目的。) ③ と言ってた/他说。(ている、ていた、ていない中的い口语中可脱落。) ④ 帰っていらした/回来。(いらつしやつた在口语中可说成いらした。) ⑤ お酒臭い/有酒味儿。(接尾词臭い接在某些名词下表示有……气味、味道、派头、样子。) ⑥ かけてごらんなさい/打个电话试试看。(ごらん[なさい]在て后可做补助动词用,相当于てみなさい。)

「一旦、頓服^{とんぷく}でも差し上げて、少し我慢してもらいなさい」

「先生にお訊きしなくてもいいのですか」

「頓服くらい、かまわないわ」

「かおるが戸惑っている」と倫子が言った。

「訊いたって同じよ。オピアトに決ってるわ」

「オピアトって麻薬ですね」

「麻薬のなかで一番強いわ、もっともそれだけ鎮痛効果はあるけれど」

「それをうってはいけないんですか」

「④ いけなくはないわ」

倫子は筆に白い墨^{すみ}をつけて、新聞紙の上になでつけた。

「あのお爺さんは胃癌^{がんが}ですね」

「そうよ」

「癌は痛くないと聞いていたのですが、あんなに痛がる人もいるのですね」

「癌が胃だけでなく、背中の方まで拡^{ひら}がって腰の神経を圧^{おさ}えているためよ」

「じゃ手術をしても助からないのですか」

「駄目だから大学病院に見捨てられて、こちらに廻^{まわ}ってきたのでしょ」

「可哀想だわ」

看護婦になって半年、かおるは、さまざまなものを見て識^しった。そのほとんどが若い

彼女には初めての経験で、それだけにすべてが珍しく興味深い。

「あとどれくらい生きられるのですか」

「直江先生はせいぜい、二、三カ月だと言ってるわ」

「そのことを石倉さんは知らないんでしょうか」

① 訊いたって/就算问。(接续助词たって接在动词、形容词连用形下,表示即使……也,用于随便会话中。) ② って/所谓的。(提示助词って表示主题的提示,相当于というのは。) ③ それだけ/相应地、那样程度。(副词,表示事物的程度或数量达到了已经指明的程度。) ④ いけなくはない/没啥不好。(は用来加强否定语气。) ⑤ もいるのですね/原来也有……。 (ののです在此表示发现。) ⑥ たため/因为。(表示原因的-ためだ后续有时省去而成。)

「もちろん知らないわ、知っているのは家族だけよ」

「じゃ死ぬのを待っているだけですわね」

「そういうことになるわね」

倫子は筆を構えた。黒い木札に白墨で——室矢常男——と、今日新しく入った患者の名前を書く。達筆である。

「いま言ったことは石倉さんに内緒よ」

そんな、だいそれたことを本人へ告げる勇氣^②なぞ、かおるにはない。彼女が真剣な表情でうなずいた時、病室からの呼出しベルが鳴った。ベルのナンバーは四一二だった。

「石倉さんのところですよ」

「プロバリンの頓服を二つほど持って行って、これで効くからといって差し上げて」

「はい」

かおるは救急医療箱から赤い包み^④に入ったプロバリンを持つと、廊下へ駆け出した。

オリエンタル病院は名前こそ大袈裟^③だが、院長の行田祐太郎^{（よしたろう）}が経営する個人病院である。

場所は環状六号線が玉川通りと交差する少し手前で大通りに面し、地下一階地上六階のビルだった。ワンフロア八十坪の一階は、各科の外来診療室を中心に待合室、受付、薬局、レントゲン室、手術室などが並んでいた。二階は物療室、臨床検査室に、医局、院長室、事務室などがある。病室は三階から六階までで、全部で七十ベッドになる。

外来は日によって多少の変動はあるが、一日平均百五、六十名は来る。表の看板には内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、と盛り沢山に書いてあるが、実際の常勤医師は、内科の河原医師、外科の直江医師と小橋医師、そ

① だいそれた/不知天高地厚的。(连体词) ② なぞ/副助词, 与など相近, 和句末的否定形式呼应, 加强否定意义。③ これで効くからといって/说这个管用。(格助词中表示方法、手段; から后面省略了飲んでください之类的话。) ④ 赤い包みに入った/装在红包里的。(た表示状态的持续存在, 相当于ている。) ⑤ 名前こそ大袈裟だが/名字虽然很夸张。(提示助词こそ用来强调所接词语, 以-こそ-が的句型出现表示虽然……但是……。)

れに小児科で女医の村山医師の四名に、院長を加えた五人だけで、整形外科は直江医師が兼ね、産婦人科と泌尿器科は週に二度ずつ、M大学病院からパートタイムの医師が来ていた。

看護婦は正看、准看、見習を含めて二十二名いる。院長の行田祐太郎は専攻は内科だが、この数年、外来にはあまり顔を出さず、気心のわかった河原医師に任せて、都会議員や医師会理事といった医者とは別の仕事のほうに精を出していた。

彼は口さえ開けば、病院経営は儲からないと愚痴をこぼすが、個人経営としては、この界限はもちろん、東京全体でもかなり大きな病院であった。

深夜の当直看護婦は二名である。正面玄関は救急指定病院なので八時までは開けておくが、八時を過ぎると一応閉じてしまう。その後の急患は表戸の横のベルを押さねばならない。

その夜は当直医が出かけたのを見透したように、安静であった。

病室では石倉由蔵が痛みを訴えた他は、三階の鞭打ち症で入院している杉本という青年が、寒気がすると言って風邪薬を貰いに来ただけで平穩であった。

外来も五時までの診療時間に遅れた患者が四名来ただけで、それも二人は簡単な傷のガーゼ交換で、二人は栄養剤と湿疹の決った注射をうっただけである。

二日に一度くらいの割で、運び込まれてくる救急患者も今夜はなかった。

医師法の理屈からいえば、八時までに倫子の独断で渡した風邪薬や、ガーゼ交換をしたことは、当直医師の指示に従って行っていないから違反ということになるが、そんな小さなことを倫子はいちいち直江に連絡をしない。処置といっても内容は決りきったことであつたし、実際電話をしてみたところで直江医師のことだから、二前のとおりやっ

① 気心の分かった/知心的。(慣用句) ② といった/之类的。(连语,表示后续体言的具体内容或称谓,在という基础上添加了“之类”之意。) ③ に精を出し/致力了。(惯用句) ④ 愚痴をこぼす/发牢骚。(惯用句) ⑤ この界限はもちろん、東京全体でも/不用说……,就是……也……。(体言或状语+はもちろん、-も~为句型,“不用说……,就是……也……”。) ⑥ 決まりきった/明摆着的。(连体词,显而易见之意。) ⑦ 前のとおりやっておけ/先照以前那样做。(形式名词とおり表示与已知的内容、情况、方法等一样、同样、照样;ておけ是ておく的命令形,备放体ておく在此表示为了应付一时而采取临时措施,与一般用法不同。)

ておけ^いと言うだけに決っていた。

九時に病室の消灯は終えたが、直江医師はまだ帰って来なかった。

夜勤の一応の仕事は終わったので、倫子は読みかけの、愛について女流作家が書いたベストセラーを読みだし、かおるはポリウムをしぼってテレビの歌謡番組を見はじめた。看護婦詰所は三階のエレベーターのすぐ右手にあつて、入口と反対側の窓は通りに面していた。その窓の左右へ二十センチほど開かれたカーテンの間からは光の中の夜の街が見通せた。

九時半に歌謡番組は終つて、かおるは小さく伸びをした。朝八時から病院に出て、午後から准看護成所へ行き、戻ってくる^くと夜勤という一日で、若い^もかおるも九時過ぎるときがに疲れを覚える。だが学校を卒業^くする二年間は頑張らなければならない。倫子は顔が髪で隠れるほど首を曲げて本に読み耽^かっている。かおるは立ち上り、テレビを消してから窓の外を見た。

「直江先生はまだ飲んでいるんでしょうか」

「知らないわ」

倫子は本から顔をあげた。本の頁^{ページ}は三分の二を過ぎていた。

「コーヒーでも淹れましょうか」

「そうね」

かおるは身軽に立ち上り、ガスに火をつけた。三階の詰所^{セイショ}の奥の一角は白いカーテンでさえぎられ、その先に二段ベッドと二つのロッカーが並んでいた。コーヒーやカップはそのロッカーの上の段に置かれている。かおるはそこからインスタントコーヒーと角砂糖を持ち出すと机の上に並べた。

7

「お砂糖は」

① 読みかけの/没读完的。(接尾词かけ接在某些动词连用形后表示动作开始尚未完结或中途停顿下来。) ② ~も~さすがに~/就连……也……。 (も用来提出一极端事项, 暗示其他也相同, 相当于でも、さえも、体育も*さすがに+谓语句构成的句型意为“就连……也……”。) ③ 顔が^い読み耽っている/专心读者书, 头低得脸都要被头发盖住了。(副助词ほど表示事物的程度, 相当于……得……; 読み耽る是自他动词, 前用に或を。)

「①一つでいいわ」
テレビが消えると思ひ出したように、夜の街の低いざわめきが甦よみがえってくる。

「淹れすぎたわ」

かおるは零れるほど淹れたコーヒークップを、そろそろとソファの倫子のところまで運んできた。

「ありがとう」

「こんなに長い間飲んでいて、直江先生、大丈夫なのでしょうか」

「さあ」

倫子は、訊かれたから仕方がないというように返事をする、コーヒークップを啜すすった。

「急患で手術でもすることになったらどうするでしょう」

「やるでしょう」

「でも酔っていてできるのですか」

「やらなければいけないでしょう」

倫子の答えは相変らず素っ気ない。かおるは当直医②がいないまま、自分達看護婦だけで、病院を預けられているのが不安になった。

「電話をかけてみたらどうでしょうか」

「かけてどうするの」

「どんな様子か探ってみるんです」

「放③つときなさいよ」

「当直を忘れたんじゃないでしょうね」

「忘れるわけないわ」

「でも、心配なんです」

① テレビが消えると思ひ出したように、～甦ってくる/电视节目没了之后，时不时地传来夜晚街道的低沉声。（とは是与谓语相联系的，思ひ出したように除了表示像想起来似的之外还可表示一阵子一阵子地、时不时地。） ② 当直医がいないまま～預けられている/值班医生不在，只有她们这些护士受托照看医院。（形式名词まま接在用言之后，表示原有的状态未加改变而发生了新的动作。） ③ 放つときなさい/不要管他。（放る常接表示放任的ておく表示不加理睬的意思，つとき即つておきの口语缩略形。） ④ 忘れるわけないわ/不会忘的。（用言连体形+わけが/はない表示从道理上讲不会……，口语中が/は可省略。）

突然、倫子は顔を戻すと、かおるを見据えた。

「あなた、なにが心配なの」

「急患が来たりしたら……」

倫子に見据えられて、かおるは少し口籠^{くちど}った。

「わたし達の責任じゃないわ」

倫子はつき放すように言うのとテレビのほうへ目を向けた。

机の上の置時計は九時五十分を示している。かおるはなにか悪いことを言ったような気がしたが、当直医のいないことがやはり気になる。

「院長先生は、直江先生がお酒飲みに出るのを御存じないのですか」

「知っているんじゃない」

「知っているのに放っておくのですか」

「わたしは院長じゃないから知らないわ」

そう言われると、それ以上、訊くわけにいかない。かおるは直江医師の長身で蒼^{あお}きめた顔を思い出した。顔は鋭く整っていたが、なにか冷え冷えとしていた。冷えたなかに

底知れぬ怖さがあった。

「あの先生、三十七歳で独身^③だって、本当ですか」

「そうなんでしょう」

倫子はコーヒーを置き、本を取り上げたが、読みはせず窓の方を見ていた。

「あの先生、素晴らしい優秀で、三十二歳で講師になって、そのままいけば教授になる方だったんですって？」

「……………」

「そんな偉い先生が何故^{なぜ}、大学をやめてこんな病院に来たんですか」

① 突き放すように言う/冷冷地说。 ② 知っているんじゃない/恐怕知道吧。(相当于-んじゃないか、即-ではないか、表示反语、用于较有把握但尚有疑虑的推测、意为不是……吗等。) ③ 獨身だって/听人说单身。(提示助词って相当于というのは。) ④ 読みはせず/没有读。(动词连用形は/も/やしない表示强烈的否定、せず为する未然形接尾辞的连用形构成。) ⑤ 三十二歳で/三十二岁时。(表示在多大岁数的时候~歳后用で不用に。) ⑥ って/听说。(终助词、表示传闻。)

「御自分で勝手に来たのでしょ」

「でも折角大学のいい地位にいたのに、変じゃありませんか」

「知らないわ」

「恋愛問題が原因だとか、大学の教授と喧嘩をしたとか、いろいろ聞いたんですけど、どれが本当でしょうか」

「どれも嘘でしょう」

「わたしもそう思うんです。みんな勝手に想像して言っているらしいのです。でも本当にわからない先生ですね」

「かおるはこれまで、直江医師と仕事のことで、二、三度話したことはあるが、二人だけで直接話したことはなかった。直江医師と自分とでは二十歳近くも年が離れていて、考えていることも話すことも、まるで違うのだと思っていた。しかし、だからといって彼が年輩の看護婦と親しく話している様子もなかった。直江医師は常に一人で、人々とは無関係でいるようだった。」

「どうしてお嫁さんを買わないのでしょうか」

「そんなこと、わたしに訊いてもわかんないわ」

「あんな素晴らしい先生なら、沢山候補者がいるでしょうに」

「かおるは自分などは到底及びもつかないが、もし求められたら年齢の開きくらい無視して受けるに違いないと勝手なことを考えた。」

「勿体ないわ」

「要するに変わっているのよ」

「倫子が吐きすてるように言った時、電話のベルが鳴った。」

「わたし出ます」

① 折角大学のいい地位にいたのに/好不容易在入学获得好的地位。(此句のに后省略了ここに来てしまったとは之类的话;せつかく~のに=表示好不容易……却……。) ② わからない先生/让人难以理解的先生。③ だからといって/虽说如此。(接续词) ④ でしょうに/大概……吧。(终助词に常用于~たら/なら~[よ]う的句型,表示遗憾、痛心等语气。) ⑤ 要するに変わっているのよ/总之是怪呀。(副词要するに意为总之;ている表示结果存留;のよ是のだ去掉掉接よ,女性这样用。) ⑥ 吐きすてるように言った/像丢出去不管似的说。(吐き捨てる意为吐出去丢下。)

かおるが立ち上り、受話器をとると、いきなり男の声がとび込んできた。

「こちら円山町の交番ですが、オリエンタル病院ですわね」

「はい、そうです」

男の声に交って、警笛や通りの雑音が聞えてくる。

「いま円山町で事件がありまして、これからすぐ救急車でこちらに向いますから」

「なんででしょうか？」

「ヤクザの喧嘩で、切られたのは一人ですが顔が血まみれなんです」

「一寸待って下さい」

かおるは震える手で受話器を倫子に渡した。

「ヤクザが、顔を切られたそうです」

すぐ倫子が替って訊いた。

「顔だけで、意識はあるんですね」

「あると思うんですが、酔って暴れてひどいんです」

「何分で来られますか」

「いま車に収容しましたから、十分、いや五分ぐらいかな、これからすぐ行きますからお願します」

電話はそれで切れた。

倫子は、しばらく考えていたが、すぐ気を取り直すと机の前の紙片を見て、ダイヤルを廻した。

「外来へ行って電気をつけてきてちょうだい。それから表の戸を開けて、煮沸器の蒸気を出して」

ダイヤルを廻しながら倫子はぼんやり立っているかおるへ命じた。病院はたちまち戦

① で事件がありまして/在……发生了 一起事件。(此处的ある非表示存在,而是发生之意,故前省略助词用で。) ② 血まみれ/全是血。(接尾词まみれ接在体言下表示某种脏东西沾满、沾污。) ③ いま捌。(视后续时态的不同いま有时表示刚刚或就要等意。) ④ 気を取り直す/转换心情、恢复情绪、重新振作起来、重振精神。(惯用句) ⑤ てちょうだい/请。(动词连用形+てちょうだい表示请求,女性在较随便的场合口语里使用,有时带撒娇的语气。)

場の忙しきになる。

直江医師が書き記していった電話番号の所はすぐ出た。

「はい、ブラントンです」

「そちらに直江さんてお客さま、いらっしゃいませんか」

音楽に交って男や女の話し声が聞える。ブラントンという店の名は、倫子には心当りがないが、やはりバーのようだった。しばらく間^③があつて、女の声が返ってきた。

「あう、先生は一時間前にお帰りになつたそうです」

「帰られた？」

「はい、それで出る時にお言づけがあつて、四三八の」

「待って下さい」

倫子は机のボールペンをとった。

「四三八の七二二六のほうへいらっしゃるとのことです」

「ありがとうございます」

当直の夜に飲みに出かけるのがいけないことは当然だが、梯子^④をして歩くとは勝手すぎる。倫子は腹が立ったが相手が出ないのでは怒るわけにもいかない。すぐ教わったダイヤルを廻す。

「いせもと」です」

今度の電話の声は男だった。

「直江さんというお客さんをお呼び下さい」

倫子は怒りをおさえて冷えた声で言った。日本料理屋でもあるのか、酒^⑤の注文を通す威勢のいい声が受話器から洩れてくる。

「いまいらっしゃいますから」

① 直江さんて/叫直江的。(て为俗语格助词,为という的省略,表示叫……的。) ② 心当たりのない/没听说过。(心当たり意为苗头、线索;心当たりのない视上下文还可译为猜想不到、没有线索。) ③ 間があつて/隔了一会儿。 ④ 梯子をして歩くとは勝手が過ぎる/竟然从这家喝到那家也太随便了。(梯子即梯子酒,意为由这家喝到那家;Aとは表示将A前面的词句主题化,谓语常伴随失望、吃惊、感叹、愤怒等感情表达;惯用句勝手に過ぎる意为过于随便。) ⑤ 酒の注文を通す/服务员把把顾客要的饭菜通知厨房。(通す表示饭馆服务员把顾客要的饭菜通知厨房、定下。)